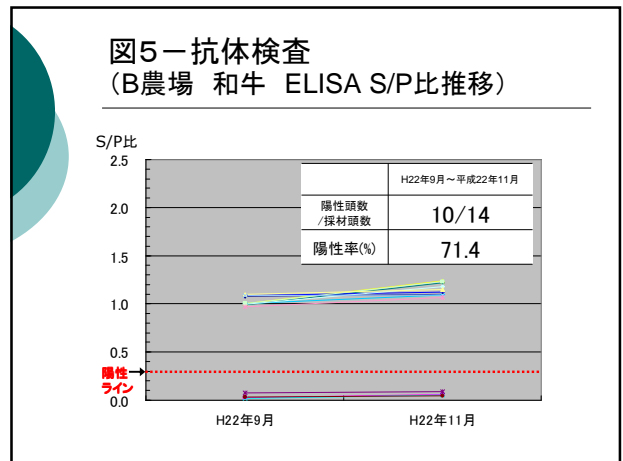
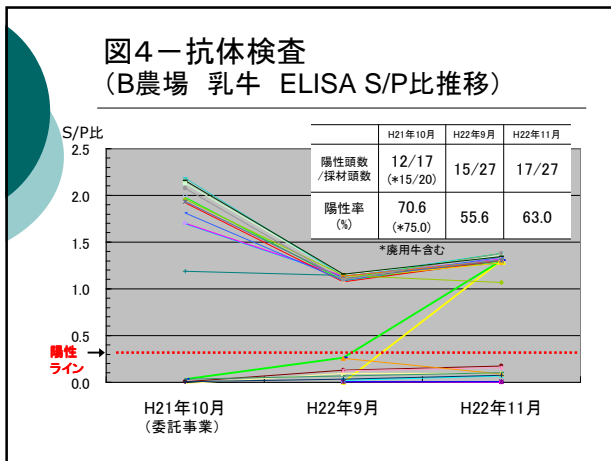
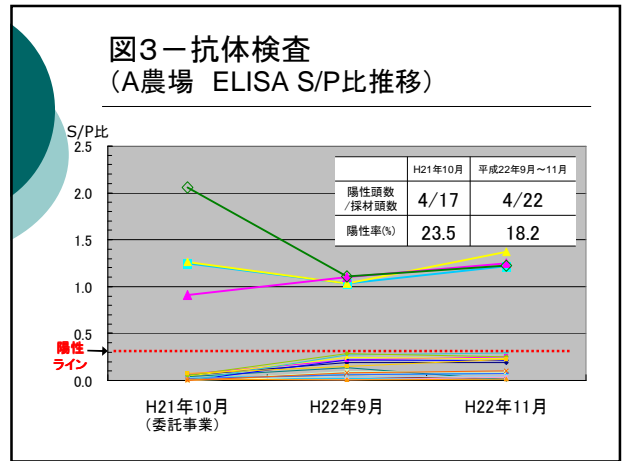


表1 - 材料と方法

	A農場	B農場
採材頭数	乳牛21頭 和牛 1頭	乳牛27頭 和牛14頭
採材日	平成22年9月、11月	
検査材料	血清、全血、乳汁	
検査項目	抗体検査 (ゲル内沈降反応(ゲル沈)、ELISA) 遺伝子検査(リアルタイムPCR(r-PCR))	



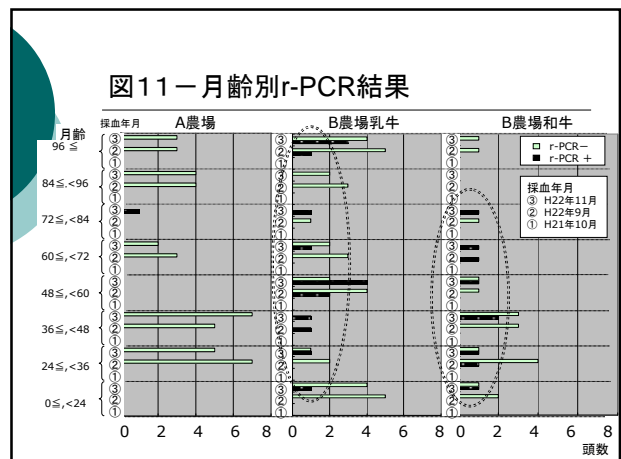
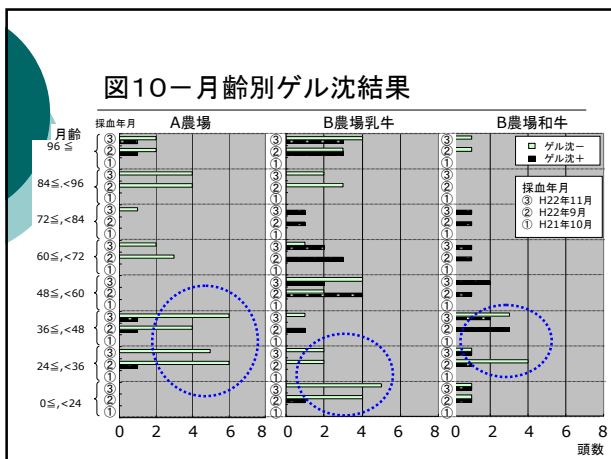
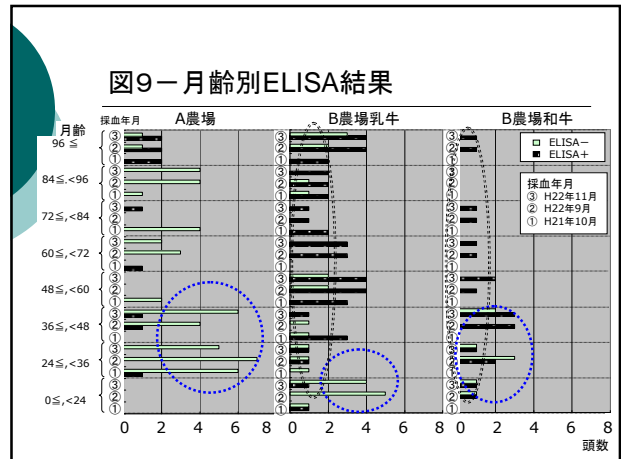
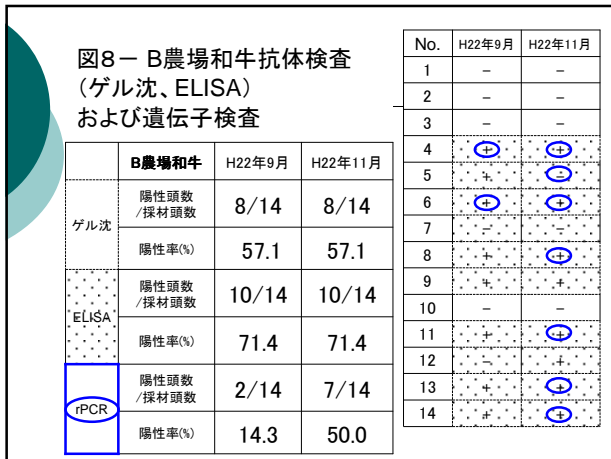
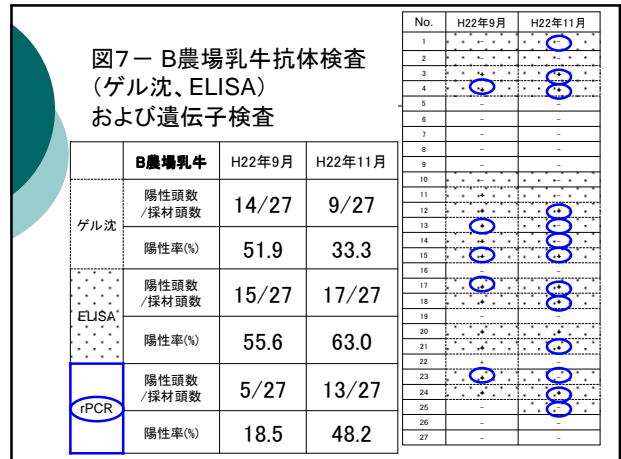
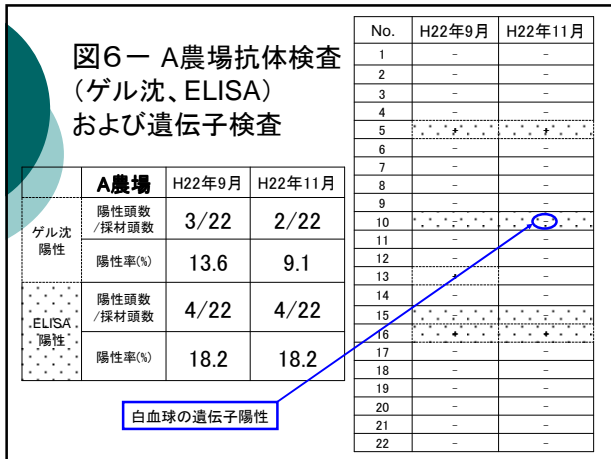


表2－BLV伝播要因

- 水平感染リスク
 - 注射針の再利用
 - 直腸検査手袋再利用
 - 外科器具未消毒(除角、去勢等)
 - ミルカー未消毒
 - 耳標装着器未消毒
 - 吸血昆虫
 → リスク回避済み

- 垂直感染リスク
 - 初乳、常乳
 - 子宮内感染
 - 産道感染
 → リスク回避困難

表3－今後の課題

- 陽性率が高く、自家産牛が多い農場では対策をとらないと陽性率が上がる。
→ 県内の浸潤状況調査を進め、高リスク農場への早期対策指導が必要。

- 陽性率が高い農場における高リスク牛の摘発にはBLV遺伝子量の算出が一助となる。
→ { 抽出方法の改善 }
 { 高感度吸光度計 } 検査手技体制整備が必要。